

最近では、仕事上のやり取りをメールで行う機会が多くなっているように感じます。インターネットが普及する前は相手に電話をかけることが殆どでしたが、相手が不在の時や電話に出られない時も多く、その時は折り返しの電話を依頼したり、留守番電話にメッセージを入れたりしていたものです。

その点メールであれば自分の都合の良い時に要件を相手に送ることができます。もちろん、緊急の時はメールではなく電話を使うのですが、自分の伝えたいことを忘れないように相手に送ることが出来るメールは大変便利だと思えます。メールを受け取る側も、都合の良い時にメールボックスをチェックすれば良いのですから、携帯電話のように出られない時も無く、上手に使えば意思疎通に役立つと思います。ただメールを送るだけでなく確認の電話を添えるなど、受け取る側への思いやりの心を持つことも大切なことです。

しかし、文字だけで相手に思いを全て伝えるのは非常に難しく感じます。例えば仕事でのメールであれば、当然尊敬語・丁寧語・謙譲語を使った文章を作成するので

## 文字と言葉の伝わり方

すが、どの言葉が尊敬語だったかなとか、一文に尊敬語と丁寧語と謙譲語が入り混じった文になったりしないかなど、言葉の使い方を間違わないか心配してしまいます。一方、友人や家族とのメールでは短い文でのやり取りが多く、結果として少ない文字数では言葉の微妙な言い回しの部分は伝えることができず、無用な誤解を招いてしまうこともあります。

最近ではメールだけでなく、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の普及により、人は自分の思いを様々な方法で不特定多数の人にまで伝えることができるようになりました。しかし、文字にいくら写真などを添えても相手に伝えきれないものがあることを知った上で、文字と言葉を使い分けたいものです。

\*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

### ■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569